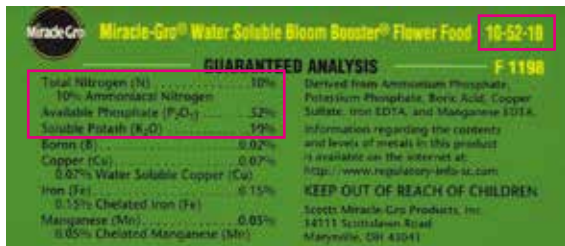


Fertilizer Information

■ 肥料の働きとその使い方

肥料は植物の成長に欠かせません。特に、鉢植えで育てている植物には人の助けが必要です。しかし、ただ単に栄養をたくさん与えれば良いというわけではありません。生育に応じて正しく与えるにはちょっとした知識も必要です。

□ 肥料の使い分け①	まずは基本の三大要素を覚えよう！	□ 肥料の使い分け②
<p>緩行性肥料 長い間効果が持続</p> <p>土に混ぜ込む元肥と置き肥があります。</p> <p>水やりのたびに少しずつ溶け出すので安心です。植え付ける時や、プルメリアが動き出した春先などに与えると、根をいためず安心です。水に溶けづらい原料を使った肥料は、肥料が根に近付くと根から出る酸でリン酸分が溶け出します。コーティングされた粒状の肥料は、樹脂でコーティングされたの膜のすき間から徐々に肥料が溶け出すしくみになっています。置き肥用の肥料は、土の上に置いて使用します。</p>	<h1>N-P-K</h1> <p>Nitrogen(N) Phosphate(P₂O₅) Potash(K₂O)</p> <p>チッ素 リン酸 カリ</p> <p>元気な葉をつくる 花や実をつける 根や茎を丈夫にする</p> <p>肥料は根が順調に育っているときに効果を表します。たくさん施せば効果が期待できるわけではありません。植物の体調を見て判断しましょう。</p> 	<p>即効性肥料 すぐに効果が表れる</p> <p>液体肥料</p> <p>水に溶かして使用します。すぐに効果が出ますが、持続はしません。通常は1~2週間に1回程度、定期的に与える必要があります。しかし強い薬は、肥料負け、肥料焼け（大量の肥料を施すと根が枯れてしまうこと）などをおこす場合があります。プルメリアの場合は、大きな葉が5枚以上でできたら液体肥料を与えても大丈夫です。はじめは濃度を薄くして回数を多く施すと安心でしょう。成長期には与え続けて大丈夫ですが、弱っている場合などは注意して様子を見ます。</p>
 <p>参考商品</p>		 <p>参考商品</p>



□ 肥料のラベルの見方

肥料のパッケージの裏などには三大要素の（チッ素・リン酸・カリ）の成分比が表示されています。これは全体を100としたときのそれぞれの重量を表しています。プルメリアには、花を咲かせるために中央のリン酸（P）の数字が高いものを選びます。リン酸は日本でよく見られる赤土などに多く含まれるアルミニウムや鉄などと結びつくとき水に溶けにくくなります。植物が吸収しないと効果もないので、多めに施す必要があります。

